

## 活動名 教育を通じての国際交流

団体名 世界の教室から

代表者名 山田 早紀

### 1. はじめに（背景・目的・目標）

カンボジアにはアンコールワットなどの遺跡があり、そこで働く日本語ガイドの仕事は給料が他と比べて高く、需要も多い。そのため、カンボジアの子どもたちは日本語を勉強している。カンボジア以外にもアジアの発展途上国では日本語を学ぶ子どもたちが多く存在している。

この「世界の教室から」のプロジェクトの目的は、日本語教育を行っている海外の学校を訪問し、日本語の授業ボランティア、現地学校訪問での子どもたちとの文化交流、現地の方々との交流を通じて自分を超越する力を見につけることである。この目的を達成するために、3つの目標を立てた。

#### 1) 自主性の重視

アポイントメントから移動手段、航空券の入手、滞在施設、授業計画、帰国までの全てを自分たちで分担し行う。結果として自分たちで考えて行動する力、協力する心を養うことができる。

#### 2) 海外での生活の体験

言葉が通じにくい海外での生活を経験することによって視野を広げ、メンバー個々が自分を超越する力をつけることができる。

#### 3) 留学生に対する日本語教室

本学で学ぶ留学生に対して日本語授業を実施する。このことによってコミュニケーション能力、日本語授業の質を高めることも目指す。また、海外へ行ったときに英語でコミュニケーションをとることは必要であり、英語力をあげる取組みも考えたい。

## 2. 活動内容

### ①カンボジアでの日本語授業

8月27日～9月2日 カンボジア

参加者：木谷 侑以（4年）宮崎 沙紀（4年）

小田 遥加（1年）金要 南海（1年）

カンボジアの「アンコールツリースクール」というフリースクールに行き、子ども達に日本語授業を行った。今年度は行くのは4人であったが、授業内容は全員から募集し、その中から行くメンバーが授業内容を決定した。

現地では、教科書がすでに用意されており、それに沿って授業を行った。「あいうえお」など簡単なひらがなの練習やノートチェック、発表の補助をした。他にも、ことわざかるたをしたり、キラキラ星の歌を歌ったりする活動を実施。子どもたちはとても楽しんでた。授業だけではなく、異文化交流も行い、現地での遊びや生活についても学ぶことができた。

よかったことは、フリースクールを運営しているソクホンさんの家に泊まり、単に旅行でカンボジアに行くよりも、カンボジアそのものの生活を体験することができたことである。また、子どもたちとの距離が近く、関わり方や指導の勉強にもなったと感じている。こども学科で、将来小学校教諭を目指している学生には、日本の子どもとの違いも見つけることができ、よい経験になった。

改善点としては、もう少し自分たちが考えていた授業ができたならよかったということだ。来年度は積極的に考えた授業をする時間も確保できるよう交渉したい。また、今回は参加した学生が4人であったため、子どもたちの人数に対して、先生役の学生の数が少し少なかった。来年度は、人数を増やしてさらに質の高い授業を行えるように、はやめに計画を立てていきたい。

### ②カンボジア報告会

12月6日 昼休み A33 参加人数 17名

今年度は、新しく入ったメンバーが多かったものの、日程が合わず、カンボジアに今年には行かずに来年行きたいという学生が多かった。そのため、今年カンボジアに行った学生から活動の様子や感想を聞く機会を設けた。写真をもとに説明し、よかったこ

とや成長したことなどを交流できる機会となった。来年度に行く学生は、現地での活動内容のイメージを持つことが出来たと感じている。

### ③イングリッシュボランティア

7月7日 金沢駅付近 参加人数 5名  
2月24日（予定）

イングリッシュボランティアは、金沢を訪れた外国人観光客のお手伝いをする活動だ。観光地を歩いて、困っている外国人観光客に積極的に声をかけて英語でコミュニケーションをとり、英語で実際に話す力をつけることが目的である。以前カンボジアを訪れた際、英語でコミュニケーションをとることの難しさを実感したため、少しでも英語でコミュニケーションをとれるようになりたいと思い、昨年から行っている活動である。

今年度は、金沢の観光地である金沢駅や近江町市場で、バスの乗り場や喫煙所の場所などを教えることができた。英語で伝え合うことができたことは、とても楽しく、英語力を上げたいという向上心にもつながった。しかし、学生の参加人数が少なかったため、多くのメンバーが参加できるよう日程を組んでいきたい。2月には、東茶屋街で実施しようと考えている。

### ④留学生イベント

1月24日 あそび工房 参加人数 5名

金沢星稜大学に来ている留学生に向けて日本語授業やイベントを行う活動である。前期は実施することが出来なかったが、後期に、写真たてづくりのイベントを行った。留学生のなかに写真をとることが好きな人やインスタグラムで写真映えするものが好きな人がいるということから、日本での思い出の写真をぜひ飾ってほしいという思いで企画した。

よかったことは、しっかりと計画をたてて準備できたことだ。また、参加してくれた留学生は、「大学では座学の講義ばかりだから、実際につくる活動はとても楽しかった。日本の学生とお話ししながら作れるからうれしかった。」と感想を言ってくれた。

お互いの異文化交流をする時間も確保することができ、よいイベントになったと感じている。

改善点は、参加人数が少なかったことだ。もう少し早い段階からイベントの周知をし、イベント前にも事前に留学生との交流をすると参加人数も増えると考える。来年度も、留学生のニーズに応えることができる楽しいイベントや授業を企画していきたい。

### 3. 成果、結果の考察

昨年と同様にカンボジアでの日本語授業、慣れない環境下での生活を経た人は自分を超越する力を身につけることができた。日本での活動も、1から企画し実行できたことで自分の強みとなった。新しく入ったメンバーは、初めて参加する活動が多くあり、一歩踏み出す勇気や達成感を味わうことができた。

### 4. 今後の課題、展望

今年度は、様々な活動において参加した人数が少なかったことが反省点である。1人1人がプロジェクトの一員であることを再確認し、責任感をもち活動に参加するようにしていきたい。そのためにも、それぞれの活動の担当を決め、役割分担をして活動の企画から反省まで行うことを重視していきたい。留学生のイベントでは、留学生の特色を生かすことができる楽しい授業やイベントを今後さらに深めていきたい。1人1人が責任感をもち活動することで、今後新しい企画も考えていきたい。

写真1 アンコールツリースクールでの集合写真

